

田中研新聞

第104号

2022年
1月3日発行

甲南大学知能情報学部田中研究室 ほぼ毎月発行
http://carnation.is.konan-u.ac.jp
編集責任 田中雅博

あけまして

おめでとーびーぞーいます

オミクロン株の広がりが伝えられる中、2022年が暮をあげました。皆さん、いかが新年を迎えられたでしょうか。昨年はまだ警戒感が強く、帰省する人もまばらな中で迎えられた静かな正月でしたが、今年はデ

ルタ株がある程度鎮静化している中で、2年ぶりの帰省ラッシュがありました。我が家も例外ではなく、福岡と大阪から娘がそれぞれ家族連れで4人ずつ帰省し、誰かがウイルスを持っていけば全員感染するよう

な状況で10人が同じ部屋に集まりました。風呂が大変なので、男性だけスーパー銭湯に行きましたが、これまた芋の子を洗うような大混雑でした。今日それぞれ帰っていききましたので、岡山駅まで見送りに行つたところ、これまたすごい混雑でした。どのお宅も似たり寄つたりだと思つたので、

年明けはコロナ新規感染者がぐつと増えるのではないかと思います。さて、新年は定期試験直前であつて、4年生やM2の皆さんには卒論、修論の提出期限も迫り、何かと気づわしい時期と思います。それにともなつて、我々教

員も、卒論や修論チェック、試験問題作成、採点と、学内業務が多忙を極める時期でもあります。自分の1年間をモデル化する。どんな1年になるかは、



多くの要因によって決まりますが、20歳を過ぎた皆さんは、それを以下のようにモデル化して考えることができるものと思います。

1. 自分自身は何もしなかつたら次第に劣化する。
2. 劣化する分を努力によつて補える。さらに、努力すれば今よりも高い自分を狙える。
3. 外的要因により、自分の状態が向上することも、悪化することもあつる。
4. 皆さん自身の状態は、誰からも直接は見えない。

指導者からは完全には見えなく、身近にいる家族や友人からも完全には見えません。さらには、君たち自身も、自分を正確には理解していないことも多いと思つます。

以上のようなモデルは、制御工学で使われる、状態空間モデルをイメージしたものです。状態変数は皆さん自身の内部状態、1〜3は時間更新モデル、4は観測モデルです。

こういうモデルは、数式で表現できるほど単純なものではありません。その時々のモデルの係数は変化するのであり、そもそも、内部状態をどういう値

にするべきかということも難しい問題です。高度に非線形であることもいうまでもありません。これを数式にしようとしても失敗することは明らかなので試みません(たまに、そういう無駄なことにチャレンジして世間の注目を浴びて成功するひともありますが)、私は現実派を自認していますので、そういうことはしようとは思いません。

ただ、こういうことを考えるときに教訓として使えるものもありますので、それを皆さんにお伝えしたいと思います。

皆さんはSFの世界にいるわけではないので、自身の指針も持たず、常に「時間つぶし」するよう生活をしていて、いきなり望み通りの自分になることは決してありません。

自分のゴールはどこにあるのか、そのイメージを持たなければ、努力のしようもありません。我々は大学の教員ですから、皆さんが、高い教養やインテリジェンスを持った、コンピュータの分野で仕事のできる人物になれるに指導しますが、皆さんが持っている目標がそういう方向になつたら、指導のしようもありません。

もし、自分の思う方向が全く異なっているのであれば、どうやればそういう自分になれるのか、しっかりと勉強する必要があります。

たとえば、勉強は苦しいばかりだから、技能を持つた職人になりたいと思つているとしましょう。そうであれば、これからでも、そういうことができるのか、自生活はしているのか、自

分はそれに適した力がありそうなのか、調べてみたらどうでしょうか。不満を口実にして、自身を正面からとらえずに現実から逃避するような生活は何の成果ももたらしません。

分はそれに適した力がありそうなのか、調べてみたらどうでしょうか。不満を口実にして、自身を正面からとらえずに現実から逃避するよう生活は何の成果ももたらしません。

「隣の芝生は青い」という諺があるのを知っているでしょう。よくわからないものは、いいもののように見えるということ。今の皆さんからは、就職後の世界がそう見えるかもしれない。

確かに、仕事をしっかりとしようと思つて、毎月20万前後の給料がもらえるのは、今の皆さんから見るとすごいことかもしれません。SEはあまりプログラムを作らないと聞けば、プログラムが嫌いな自分はSEをすればいいと思うかもしれません。

しかし、会社は皆さんに不労所得を与えることはありません。会社自体は冷たいものです。さまざまな法律が社員の生活の最低限のレベルをキープしてあります。社員の生活がどういふ感じかということ。『ジョブリスナー』でも先輩の話も聞いてもらつていて、一部の人間については様子がわかります。ゼミ室の書架には、就職関係の本、SEの仕事について書かれた本もあります。もちろん、書店にいけば、自分の知りたいことが書かれている別の本もあるでしょう。そういう、まともな情報を得て動いていますか？ ネット上で、「〇〇会社はブラックだ」などと書いてあるのを見て、それだけで思い込んでいませんか。会社を辞めた人は、自分に原因があつたことを棚上げて、腹い

せに会社を悪く言っています。ただし、多くの人がそう書いていけば、そういう傾向があることは多々あります。

学校、会社は社会

学校も会社も社会です。大学にも、皆さんが入つていく会社にもルールがあります(規程といいます)。社会の中はルールだけで動いているだけではなく、日ごろの挨拶、感謝の言葉、返事など、これを怠つたら社会は成り立たないと思われ常識があります。

すれ違つたり、部屋への出入りの際の挨拶ができない学生が最近増えているように思います。また、ほんのちよつとのもので「ありがとう」があるのとないのは全く違います。メールへの返信も、そのたぐいの常識である、人とのインタラクティブです。

私が今でも覚えていて、ことに、会社(島津)に入つてすぐの新人社員だったころ、両手に荷物をもつて、裏口のような扉から建物に入るうとして、ちよつと困つたときに、さつと開けてくれたのは、西八条専務(のち、社長)でした。この時は驚きました。会社でも学校でも、優れた人物は挨拶してくれませんか。偉そうにしている人は決して偉い人ではありません。物理的にしんどい(えらい)からそういう態度になつていて、ケ

最後に

今年、皆さんが自分自身をきちんと把握して、自分の方向に向かって着実に進むような1年になるようにしてください。その向こうには自分の考えているような未来があるかもしれません。

最後に

